

第23回 がらしあまつりのお知らせ

日時 平成28年10月23日(日)
9:00~12:30 (雨天決行)
会場 ガラシア病院外来駐車場、
2階フロア、7階ガラシアホール

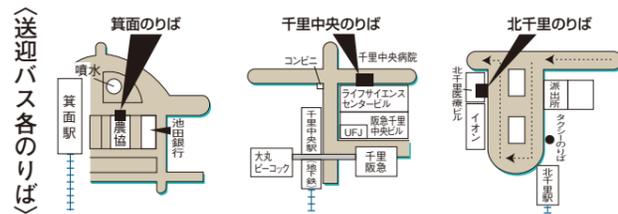
毎年恒例の「がらしあまつり」を今年も開催します。例年通り、模擬店やバザー、健康相談等を企画しています。また、講演は、前田一石医師による「地域で最期まで暮らす取り組み」、尾西貴裕理学療法士による「当院における健康増進の取り組み」の2題を予定しています。職員一同、張り切って準備を進めています。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

【チャリティーバザー用品提供のお願い】

チャリティーバザーのための品物を広く集めています。皆様のご協力をお願いします。尚、収益金はカトリック大阪大司教区を通して、熊本地震支援金として全額寄付します。
 ※健康器具・中古衣類・古本・雑誌類はご遠慮ください
提供締切 10月7日



●千里中央・北千里・箕面駅からシャトルバスを運行しています。



ガラシア訪問看護ステーション

TEL 072-727-1866 FAX 072-729-3311

介護老人保健施設

ニューライフガラシア

TEL 072-729-2346 FAX 072-729-7951

指定居宅介護支援事業所

ケアプラン ガラシア

TEL 072-729-2347 FAX 072-729-3311

箕面市東部地域包括支援センター

TEL 072-729-1711 FAX 072-730-2230

医療法人ガラシア会 **ガラシア病院** 日本医療機能評価機構認定病院

〒562-8567 大阪府箕面市粟生間谷西6丁目14番1号
 TEL.072-729-2345 FAX.072-728-5166
<http://www.gratia.or.jp/>

診療受付時間

平日 / 8:30~11:30
 12:30~15:30
 土曜日 / 8:30~11:30

休診日

日曜、祝祭日、土曜午後
 8/15、12/25、12/30~1/3

編集後記

と〜っても暑い夏も終わり、やっと秋の足音が聞こえてきました。収穫秋、食欲の秋、もみじ色に色づくガラシア病院。まさに自然のめぐみを満喫できる季節到来です。さて、今回151号は紙面も大きく、カラーになりました。表紙の文字めぐみは、伊藤院長に毛筆で書いて頂きました。そして表紙の野菜はガラシアの庭で収穫された野菜です。今後もひきつづきガラシア会のニューズレターをお届けしますのでお楽しみにー！ U.K



編集・発行 広報委員会

めぐみ



ガラシア
健康ニュース
2016
No.151

医療法人ガラシア会 理念

ガラシア会は 病める人を癒された
 キリストの慈しみの心にならい運営される

— 理念の実践 —

私たちは キリストの奉仕の心をもって
 すべての人にカトリック倫理に基づく
 医療と介護を行います

私たちは 専門的知識と技術の向上に努め
 互いの人格を尊重し ガラシア会の事業に
 積極的に参加します

ガラシア菜園の収穫物

ガラシアの一人ひとりがキリストに

— ガラシアのアジサイ道(みち)やキリスト道(どう) —

「ガラシア会は病める人を癒されたキリストの慈しみの心にならい運営される」と謳われています。そして、その「ガラシア会」の名称は「貧しい人や病める人々に奉仕した細川ガラシアの洗礼名『ラテン語の GRATIA=めぐみ』に由来しています。そのため、基本方針の第一は、「患者中心、慈しみの心」となっています。もちろん、地域医療、医療連携、健全経営はさることながら、特に、終末期医療、パストラルケア(患者や家族の『心と魂のケア』を親身になって世話する)に力を注いでいます。これらの目標、方針を実現するために、リハビリ棟も含む病院施設のほかに、介護老人保健施設(ニューライフガラシア)と在宅サービスセンターを運営しております。さて、私は、創立者田口芳五郎枢機卿と、そのご意思を受け継いでこられた歴代理事長の後継者として、大変重要な責任を担うことになりました。教会も社会も

今、「いつくしみの特別聖年」、「高山右近列福」、そして「細川ガラシア」などが注目され、キリストの「慈しみ」が伝えられなければならない時であります。「いのちを慈しむ」社会実現のためにも、ガラシア病院は新築事業をはじめ、中・長期計画という大変重要な新転換期を迎えております。これからもますます、ガラシア病院のため、キリスト教関係の皆様はもちろん、地域の皆様、ガラシア会関係内外の皆様のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

医療法人ガラシア会理事長

前田 万葉

(カトリック大阪大司教区 大司教)



J-HOPE



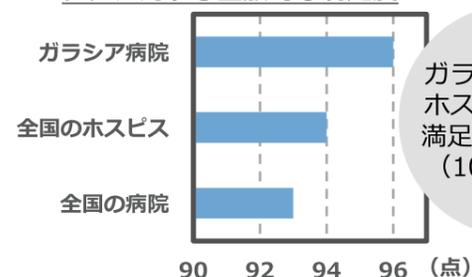
ホスピス医長
前田 一石

ガラシア病院でのホスピス・ケアの質の評価：大規模遺族調査の結果から

ホスピスでは状態の悪い患者さんに心を尽くしたケアを行っていますが、このようなケアはしばしば自己満足に陥りやすいものです。わが国では大規模な遺族調査が行われ、ホスピスでのケアの質を客観的に評価し、改善の要点を知るための資料として用いられています。2014年に行われたJ-HOPE 3研究がそれにあたり、全国175の病院・ホスピス・在宅診療所で亡くなられた患者さんのご遺族9126人（有効回答率67%）が調査に参加されました。ガラシア病院ホスピス科でもこの遺族調査に参加し、80名のご遺族に調査票を発送し56名より回答をいた

だきました（有効回答率70%）。ご協力いただいた皆様にこの場を借りて御礼申し上げます。以下、当院での調査結果を示します。ケアに対する全般的な満足度は100点満点中96点と高い評価をいただきました。「入院（利用）のしやすさ」「看護師の対応」「医師から家族への説明」などが、平均を上回った項目でした。患者さんのQOL（生活の質）に関しては、主要10項目の平均点は7点満点中5.1点で、「からだの苦痛が少なく過ごせた」「楽しみになることがあった」「家族や友人と十分に時間を過ごせた」「落ち着いた環境で過ごせた」「ひととして大切にされていた」「人生をまっとうしたと感じていた」などの項目で達成度が高い結果でした。この結果から、病床数が多く利用しやすいこと、自然に囲まれた環境で落ち着いて療養していただけること、リハビリスタッフ・ボランティア・チャプレン（神父・シスター）など患者さんに関わる人員が豊富で、苦痛緩和だけでなく喜びや楽しさを感じていただけるような関わりが持てることが当院ホスピスの特徴であると考えられました。総じて高い評価をいただけたことは嬉しい限りですが、反省点も明らかになりましたので、今後もケアの質の向上に努めたいと考えております。皆様のご指導・ご支援を引き続きよろしくお願い致します。

ケアに対する全般的な満足度



ガラシア病院のホスピスケアの満足度は96点！（100点満点）

老健だより



8月6日（土）恒例の盆踊り大会を開催しました。開始直前で空模様が一転。黒く分厚い雲が空を包み、楽しみにしていた屋外での盆踊りが中止になるかと心配しましたが、なんとか雨も降らずに開催することができました。適度な風と曇っていたことが幸いし暑さも凌げ、盆踊りには絶好の天候になりました。威勢のいい太鼓の合図で開会。まずは雪扇会の皆様を中心に炭坑節・箕面音頭などで盆踊り大会が始まりました。職員はもちろん踊り好きな利用者様も一緒になってみんなで輪になり踊りました。踊りのあとは、職員による各部署対抗歌合戦がスタート。それぞれに工夫を凝らしたステージを披露してくれました。利用者様・ご家族からの黄色い声援もあり、と

ても盛り上がりました。屋内へ移動した後は、お食事タイム。たこ焼き・焼きそば・お好み焼き・カレーライスに素麺と盛りだくさん。皆さん普段では見たことがないほどの食欲で、お腹いっぱいまで召し上がっておられました。外も薄暗くなった頃、花火大会も行いました。きれいな打ち上げ花火や吹き上げ花火を見ながら、夏の思い出と共に盆踊り大会を締めくくりました。

老健支援相談員 佐藤光宏



新任ドクターの紹介



田橋 賢久

- 専門科** 内科・消化器内科
- 趣味** アウトドア・ドライブ
- 座右の銘** 「過去にとらわれず、未来に怯えず、今を生きろ！」 By 堀江貴文
- 抱負** この度、縁あって本年5月より医療法人ガラシア会ガラシア病院にお世話になっております田橋賢久と申します。昭和62年に大阪医科大学を卒業、同大学第二内科で研修を受け、消化器内科医として働いてまいりました。未熟ながらも多くの検査処置に携わった中で得られた経験で、少しは皆さまのお役に立てればと考えております。これから宜しくお願い致します。

ホスピスだより

8月5日ホスピス夏祭りが行われ、患者さんとご家族が参加されました。ギターの演奏、盆踊り、花火があり、花火は屋外でしたが、見やすいようにと、屋内のスクリーンに大きく花火が映し出されました。炭坑節に合わせて体を揺らしている患者さん。食欲がなくて、ふだんはあまり食べられない患者さんも、おいしいと食事を喜ばれていました。「祭りよかった。花火もあって楽しかった。」「想像以上でした。ごちそうが出て、いっぱい食べましたよ。」「また写真とろうな。」祭りのあと数日たっても、楽しかったと話される患者さんの言葉を聞いてうれしかったです。ご協力いただいた皆様、本当にありがとうございました。



5階病棟 看護師

第21回 日本緩和医療学会 研究報告

「ホスピス入院中の患者さんに対して行うリハビリテーションが日常生活動作および生存期間に及ぼす影響について」カルテ調査より

当院のリハビリテーション科は、リハビリテーション（以下リハビリ）を希望されるホスピス入院患者様にも積極的に実施しています。そこでリハビリが日常生活動作と生存期間に与える影響をカルテ記録から調査しましたので、ご報告致します。調査期間と対象は2014年10月から2015年9月までの1年間で、当院のホスピスへ入院された患者様のうち入院時に歩行が可能であった90名です。ホスピス入院中の患者様に対して行うリハビリ内容は、軽めの筋力トレーニングや拘縮予防とリラクゼーションを目的とした関節可動域練習、痛みなく寝返りや起き上がりができるように基本動作練習、息苦しさの軽減のための呼吸リハビリなどを行いました。その結果はリハビリを実施された方々の方が自立した日常生活動作が長い傾向でした。また、生存期間もリハビリを実施された方々の方が有意に長かったということが示されました。（図は統計処理したもので、有意に長いことを表しています。）

過去の実施設の報告においては、日常生活動作能力は改善したと多数報告されており、当院の今回の調査結果も同様でした。また生存期間についての報告はほとんどされておらず、生存期間の延長という結果は貴重なものと考えられます。このことはリハビリに関わる者にとって非常に驚くべきものと同時に意義のあることと認識することができました。ホスピス入院患者様に対してのリハビリは追加費用無しで実施できますので、主治医に相談してみてください。今後より良いリハビリテーションを提供していくために精進して参りたいと考えております。引き続き皆様のご指導、ご支援をよろしくお願い致します。

リハビリテーション科 理学療法士 新野 巧

